

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400378		
法人名	株式会社 ホライズン		
事業所名	グループホーム 三和		
所在地	福島県いわき市三和町渡戸字峠平33-1		
自己評価作成日	平成22年5月20日	評価結果市町村受理日	平成22年9月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成22年7月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム内だけの生活ではなく、外出・散歩・買い物・外食またご家族との交流を図り、ストレスのない暮らしが継続できるように心がけています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 開設間もない事業所であるが、開設時に1軒ずつ挨拶をして回ったため、近隣と顔なじみの関係が出来ている。
2. 法人の代表者が管理者を兼務しており、利用者や職員の意見を聴取する機会を作り、把握した意見を運営に活かしている。
3. 管理者、職員が利用者寄り、明るく笑顔で接しているため、利用者が落ち着いて穏やかに暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作り理解しているものの、職員が実践につなげることが不十分である	地域密着型サービスの役割を反映した理念を掲げているが、事業所独自のものとはなっていない。また、職員の理解も不十分である。	事業所の利用者や地域性に合わせて事業所独自の理念を作成するよう職員の意見も取り入れ検討されたい。理念は日頃から職員と共有し実践につなげて欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを大切にしてきたが、日常的な交流は図れていない	事業所開設後1年未満であるが、開設時に地域を1軒ずつ挨拶に回ったため、顔なじみの関係が出来ている。今後、地域行事にも参加をしていく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を、地域に向け発信できていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見やアドバイスは素直に受け入れ、今後に活かしています	昨年度は、2回の開催のみであった。参加した委員からは積極的に意見等出されている。他事業所の行事や研修会へ参加したり、外食の機会を設けたりとサービス向上に活かしている。	定期的に開催できるよう委員に協力を求めながら取り組んで欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは、現状報告や質問も含め、日頃から密に連絡を取っています	日頃から市の担当者と情報交換を行い、協力関係が築かれている。現在、福祉・介護人材緊急支援事業について、頻繁に連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修にも参加し、職員に伝え周知させ、身体拘束のないケアに努めています	身体拘束をしないケアの実践に向けて、外部の研修会に参加したり、事業所内で研修会を開催したりし、全職員が理解できるよう取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、虐待がないように全員に周知徹底させております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それらの制度について学ぶ機会がなかったので、今後さらなる理解を図りたいです		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	しっかりと説明し、ご理解、ご納得を得ていると考えています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置で、ご意見やご要望がいただけることと期待しております	管理者は機会を見つけては、利用者一人ひとりと話しをし意見・要望等聞いている。また、家族訪問時には家族の要望等聞きとっている。聞き取った意見等は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は、管理者まで届くようになっており、必要があれば話し合いの機会を作っております	職員の意見は、事務員を通して管理者に伝わる仕組みが出来ている。出された意見を運営に反映させ、働きやすい環境等が整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	まだ開所して1年経過していないので、今後そのような整備ができるようにしたいです		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	何かあれば、アドバイス又は指導していますが、法人外の研修等の参加は少ないのが現状です		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流している法人との研修受入や情報交換等していますが、今後さらに充実させていきたいです		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人と会う機会を持ち、できるだけ安心してサービスを受けられるよう支援しております		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族は、どのようなサービスを望むのかを聞き取り、何かあればすぐに連絡がとり合えるようにしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの生活が、本当に最適な選択なのか、家族も含め話し合います		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	不十分なところはあると思いますが、基本的にはそのような関係を築こうとしております		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全てのご家族と、そのような関係が築けているとは言えない		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの友人との交流や、その方々との外出等ができるように心がけています	入居前からの友人が訪問してくれることが多い。友人とお茶を飲みに行ったり、選挙に出かけたりしている。また、家族の協力を得て自宅近くの馴染みの美容室にも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し、どのように支援すべきかを考えサービスを提供しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	そのような状況が生じれば、できる限りフォローしていきたいと考えています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に基づいたサービスの提供をすべく支援しています	管理者が利用者一人ひとりと毎月話す機会を作り、思いや意向を聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族の聞きとりも含め、可能な限り把握しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に情報収集し、現状把握に努めております		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向と家族の要望等も勘案し、本人に合っていて分かりやすい計画作りをしています	利用者・家族の思いや利用者の身体状況等を基に介護計画を作成している。しかし、職員が介護計画を十分理解しておらず、計画に沿った実施記録等は不十分である。	職員は介護計画を理解して利用者支援を行い、介護計画に基づく支援は、記録する必要がある。計画終了時に記録や利用者の状況等を基に関係職員でモニタリングし現状に即した計画へ見直しすることが大切である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録を重要視し、それらを参考に、今後に活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族に最も適している支援を今後も行っていきたいと考えています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活かし、それらを楽しみ活用するまで至っていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を優先し、適切な医療が受けられるよう支援している	入居時にかかりつけ医を聞き取り、家族の協力を得ながら適切な医療が受けられるよう支援している。また、協力医療機関による月2回の往診もあり、結果は診療に関わる記録で残し、家族へも報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化等があれば、すぐに外部の看護師に連絡し、相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相互に情報交換し、利用者の負担にならないように支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でできることは事前に話し合い、連携医療機関とともに安心して終末期を迎えられるよう努めている	医療連携体制加算は取っていないが、入居時に「入居者の重度化と終末期の対応指針」を説明し、利用者・家族から同意を得ている。また、終末期をどこで迎えたいか、家族や利用者から希望を聞き取り、話し合いをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練は定期的に行っていないので、実践力は身に付いていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を行い、方法は理解しているが、まだ万全であるとは言えない	6月には消防署立会いの訓練、11月と3月には火災想定自主訓練を実施しているが、夜間想定訓練は実施していない。事業所開設時に1軒ずつ挨拶をして回ったため、近所の協力体制も出来ている。	避難訓練は、出来るだけ回数を多くし、様々な災害や夜間等も想定し訓練することが大切である。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者又は家族に対する言動には、十分配慮している 対応が悪ければ即、注意指導している	利用者一人ひとりの人格を尊重し、言動に十分配慮し対応している。また利用者の個人情報 の取扱いについては、適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望は表出しているし、何か行事や買い物等があっても全て自己決定していただいている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活パターンに極力合わせて、一日を過ごしております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容や衣類も、本人の選択に基づいて行っています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	意向に沿い、作業をともに行う方にはお手伝いをいただいている 一緒に食事を摂ってはいない	食事の用意などを一緒にできるように利用者へ声かけをし、出来ることは一緒に行っている。しかし、職員は利用者と一緒に食事を摂っていない。	共同生活介護の観点からも、職員と利用者が共に味わう行動は大切なものであるため、職員も食事を一緒に味わえるように検討して欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の疾患も勘案し、バランスを考えている 水分量も把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレ排泄ができるよう、オムツの方でも、日中はトイレ誘導している	排泄チェック表をつけて一人ひとりの状態を把握している。把握した排泄状況を見ながら、トイレで排泄出来るよう誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物を工夫し、それでも困難な場合は、医師に相談し対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度、時間は決めています、希望があればタイミングに合わせるようにしています	一番風呂に入りたい等、利用者の希望に合わせた入浴支援をしている。また、入浴拒否をする利用者にはタイミングをずらし声かけする等入浴へつなげたり、清拭の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や、生活リズムに合わせて休息できるようにしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員ではありませんが薬については説明しています 薬の内容が変わった場合は、しっかり観察します		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり異なる役割、楽しみごとについて理解し、それが達成できるように支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気分転換のために、いつでも戸外に出られるようにしています 又家族にも協力いただき行きたい場所に行けるよう支援しています	利用者の希望にそって、近くを散歩したり、買い物に行く支援をしている。お墓参りや外泊などは家族に連絡をして協力を得ている。また、利用者の友人が事業所を尋ねてきて一緒にお茶を飲みに出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者がお金を所持、また使用しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりは日常的に行っております		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい、清潔感のある共用スペース作りを心がけています	季節感のある利用者の手作りの作品等を展示し、掃除が行き届いた共有空間は天井が高く開放感がある。利用者はその時の気分でテーブルやソファ等居場所を選んで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いホームではないのですが、それなりに居場所を作って、気の合う方々でお話しをされてます		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	馴染みの物を持参していただき、自分の居場所を感じていただけるよう、家族にもお願いしています。位牌や、自宅で使用していたタンス等を持ち込みされています	利用者は入居時に自宅で使用していた整理タンス、テーブル、椅子、位牌などを持ち込み、居心地よく安心して過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱しないように、分かりやすい環境づくりを目指しています		